

次世代正極材料向け研究開発を加速 ～パイロット設備導入と電池研究所第2開発棟の建設を決定～

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：野崎 明）は、電池材料事業の拡大に資する高性能かつ低コストの正極材料およびその製造プロセスを開発する研究開発基盤を強化するため、パイロット設備の導入とそれらの設備を収容する建屋（電池研究所第2開発棟）の建設を行うことを決定しました。建設開始は2023年12月、完成は2025年12月の予定を見込んでおります。

新しく導入するパイロット設備では、全固体電池用正極材料をはじめとする次世代正極材料および新しい製造プロセス開発を目指したパイロット規模での実証試験に取り組みます。これにより、以下のことが可能になります。

- 新規材料およびプロセス、既存製品に基づく開発品について、パイロット規模での開発体制を整え、お客様のニーズに即した開発、サンプルの提供ができる。
- パイロット設備での事前検証に基づく量産設備仕様の精度向上により量産設備の垂直立ち上げに寄与できる。
- 新プロセスのパイロット設備は、経済産業省のグリーンイノベーション（G I）基金事業の助成対象になっており、設備導入により事業計画を着実に実行することができる。

また、これら新プロセスのパイロット設備を収容するための建屋として、電池研究所第2開発棟を建設します（建設予定地：愛媛県新居浜市）。建屋は、新居浜研究所に隣接する場所に設置され、3階建てで延べ床面積は約3,000㎡を計画しています。

リチウムイオン電池用正極材料の開発は日進月歩であり、特にエネルギー密度の高いハイニッケル系材料では、市場拡大が続く車載分野での開発競争が激化しています。また、脱炭素社会の実現が世界的な潮流となるなか、製造過程における温室効果ガス（GHG）削減への要請も高まっています。当社は、今後さらなる市場拡大が期待される電池材料市場において、主力製品（NCA、NMC、LFP）の改良強化とともに、全固体電池など次世代電池によるゲームチェンジの可能性も見据えて、市場ニーズに対応した高エネルギー、高安全性の新規材料開発による新規需要開拓を目指しています。この度の新プロセスのパイロット設備の導入ならびに電池研究所第2開発棟の建設により、この戦略をさらに加速させてまいります。

今後も当社は、お客様のご要望や市場需要を見極めながら適切なタイミングで投資を行い、2027 年中期経営計画（対象年度：2028 年度～2030 年度）における電池材料事業の目標である「電池正極材・月産 1 万 5,000 トン体制の構築」を目指してまいります。

以 上

本件に関するお問合せ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部 東京都港区新橋 5-11-3 新橋住友ビル

TEL: 03-3436-7705 Eメール: smm_koho@smm-g.com